



日本民家集落博物館 開館 50 周年記念式典
(撮影：日本民家集落博物館)

も く じ

- P. 2
 - 海外研究者来訪
 - 郷土の文化財を見学する会
 - 第 53 回大阪府埋蔵文化財研究会
 - 文化財講座点描
- P. 3
 - 発掘体験
 - 池上曾根史跡公園協会共催ツアー
 - 日本民家集落博物館共催ツアー
- P. 4
 - 博物館秋季特別展
 - 開館 50 周年記念式典
- P. 5
 - スポット展示
 - 企画展示「日本の暮らしー秋の歳時記ー」
 - 椎葉古民家 解体修理決定
 - 職員の異動

- P. 6
 - 第 2 回 歴史体験隊
 - 日本民家集落博物館 むかしの道具 2 漁具
 - 重要調査に関するシンポジウム
 - 日本民家集落博物館
「秋山郷の暮らしー北越雪譜の世界ー」
を見学して
- P. 7
 - トピックス
＊ふたつの高麗青磁
- P. 8
 - 弥生文化博物館 冬の展示ご案内
 - 近つ飛鳥博物館 冬の展示ご案内
 - 日本民家集落博物館 催しご案内 (12 月～3 月)

海外研究者来訪

8月1日 財団法人東亜細亜文化財研究院の辛 勇旻副院長をはじめとする一行、8名の方が本部を訪問。翌2日には、三宅西遺跡の発掘現場、弥生文化博物館、池上・曾根史跡公園などを視察された。

8月14日 財団法人韓国考古環境研究所の金 武重研究室長、財団法人湖南文化財研究院の李 嘆澈氏、順天大学校博物館の李 東熙学芸研究室長、全北大学校博物館の李 澤求助手、等の一向8名の方が普及資料室と中部調査事務所を訪問、前日には近つ飛鳥博物館を視察された。

8月17日 慶南大学校の李 相吉教授、昌原大学校の南 在祐教授、等の一同行8名の方が南部調査事務所を訪問。その後、三宅西遺跡の発掘現場を視察された。

8月29日 昌原文化財研究所の姜 東錫氏が中部調査事務所と普及資料室を訪問。

9月25日 財団法人慶尚北道文化財研究院の朴 在教課長をはじめ、3名の方が本部を訪問。午後は中部調査事務所と池島・福万寺遺跡の発掘現場を視察された。

郷土の文化財を見学する会

今年度の「郷土の文化財を見学する会」は、7月以降現在まで3回実施しました（4～6回例会）。

第4回例会（7月10日）では、東大阪市を訪問。開館間もない同市立埋蔵文化財センターを見学した後、同市立郷土博物館、山畑古墳群と回りました。

太子町を訪ねた第5回例会（9月17日）では、推古天皇など6、7世紀の日本史を彩るビッグネームたちの墳墓を見学しました。

第6回例会（10月8日）の京都府向日市では、市内の主要古墳を回り、乙訓地域で展開した諸勢力の盛衰を学び、最後に長岡京の故地を見学しました。

このようにこの間の例会は、その初期から終末期に到る各時期の古墳見学が中心となりました。講師をお願いした方々の話が大変興味深かったこともあり、参加者には古墳文化の多様性を実感してもらえたのではないのでしょうか。



第6回 例会風景

第53回大阪府埋蔵文化財研究会

第53回大阪府埋蔵文化財研究会「ここまでわかった大阪の中世」は9月30日、大阪府教育委員会文化財事務所(堺市)において開催されました。

発表は、茨木遺跡（茨木城）・池内遺跡・高屋城などの最新の調査成果、環濠都市堺や日根荘遺跡といった著名な遺跡の研究の現状、あるいは豊中市や千早赤阪村など地域全体を見渡した中世社会の動向など、地域と遺跡の性格が多岐に渡ったこともあって、大変興味深いものでした。

また文化庁の伊藤正義氏の記念講演「破城の作法」は、中世、戦国期の城の明け渡し・破壊の際の状況を、当時の社会規範や法観念の観点から解明されたもので、氏も述べられていたように、今まで「つまらない（とされてきた）もの」に「おもしろいもの」が隠されていることを実感させられるお話でした。（山元 建）

文化財講座点描

「東アジアの古墳壁画の世界」をテーマに歴史学・考古学・美術史学の先生方にお話いただく文化財講座。前回紹介した猪熊兼勝先生の「飛鳥発掘35年」から始まった。

第2回目の花谷 浩先生は発掘当時の抗菌スーツを持参され、自ら着用、当時の緊張感や臨場感を受講生にお話いただいた。網干善教先生がお亡くなりになられた直後であったので、先生の生前のお言葉も紹介されておられた。

第3回目は百橋明穂先生であった。先生は中国唐代の中原の古墳壁画について王の墓、皇族の墓、そして地方豪族の墓等を詳細に比較検討され、壮大な中国大陆の壁画を紹介してくださった。

第4回目の田中俊明先生のご講演は、中国から帰られたばかりで、その新鮮なエピソードや、過去に中国・北朝鮮を訪問された際に撮影されたスライドを示され、集安の古墳壁画と平壤のそれとの差を説明していただいた。また、現在の韓国、朝鮮半島との関係にも言及され、意義深いお話をうかがうことができた。

文化財講座は折り返し点にさしかかり、益々充実してきた。



第4回 講座風景

発掘体験

大阪府立今宮高等学校の夏季集中講座「考古学入門」を選択した2年の女子生徒4人が7月24日（月）から7月28日（金）の5日間、阪神高速大和川線の工事に先立って調査が進められている松原市の池内遺跡で、毎日、午前9時半から午後4時半まで精力的に発掘体験に取り組みました。

1日目は現場事務所で池内遺跡や隣接する三宅西遺跡の概要について学んだあと、発掘現場に向かい、調査の進め方について説明を受け、土層断面を観察し、遺物包含層を確かめ、遺構面検出の作業を体験しました。2日目は捨てられた土器等がある溝を掘り下げ、3日目は平板を使って測量のしかたを学び、川の跡の境界を検出し、アリダードやレベルといった平板測量器具を使って図面を作成しました。4日目は「出土遺物からどのようにして年代を推定するのか」という講義を受けたあと、内業実習として洗浄・接合・注記の体験をし、最終日は、前日の作業を継続したあと、まとめとして、三宅西・池内遺跡の調査成果についてモニターを使って説明を受け、全ての予定された体験が終了して、反省会に入り、感想を発表、積極的に質問をしながら、和気藹々と意見交換をして5日間の全日程を終了しました。ただ、今回が例年と異なるのは、センターが制作する映画の2本柱の一つとして、夏季集中講座が取り上げられたことです。生徒たちは映画制作会社のカメラに緊張しながらも、猛暑の中、楽しく5日間を過ごしたようでした。

また、9月に入って寝屋川市立第五中学校の2年生4名が京阪調査事務所へ職場体験に訪れました。12日（火）～14日（木）の3日間、午前9時から午後4時まで様々な仕事を体験しました。自己紹介の後、仕事の概要について説明を受け、事務所の施設や作業を見学、発掘作業のビデオを見て、仕事の全体像を把握し、あいにくの天候の中、発掘現場での平板による測量体験や壁削りの発掘体験、室内での注記・復元・実測・拓本等の体験や写真室での撮影体験もし、さらに、寝屋川市の資料館や太秦高塚古墳も見学して見聞を広めました。最後に、展示の企画、展示の作業を体験して全日程を終りましたが、一番楽しかったことは土器の接合とのことでした。（山岡平和）



体験風景(今宮高校)

池上曾根史跡公園協会共催ツアー

6回目を迎えた池上曾根史跡公園協会・弥生文化博物館との共催ツアー、今回は7月20・21日に香川・徳島両県を訪ねました。石清尾山古墳群（高松市）や萩原2号墓（鳴門市）などでは、個性的な当地の弥生・古墳時代の墓制を実感。また徳島県埋文センター（板野町）の壁面いっぱいに並べられた土器類や、讃岐国分寺跡（高松市）の調査時の状況をも分かるようにした上屋復元などは展示方法に工夫のあとが窺え、興味深いものでした。最後に細川・三好氏の居館である守護町勝瑞遺跡（徳島県藍住町）を見学し、無事帰阪。水不足に悩まされることの多い香川県の方に（大阪から）雨を持ってきたことを感謝されるくらい？天気には恵まれませんでした。大変有意義なツアーとなりました。（山元 建）



徳島県埋蔵文化財センター見学風景

日本民家集落博物館共催ツアー

今回4回目となる日本民家集落博物館との共催ツアーは、9月10日に滋賀県湖北地方を訪ねました。最初の訪問地は渡岸寺（高月町）。国宝十一面観音菩薩の妖艶さすら感じさせるその姿にしばし言葉を失いました。次に北陸の物資を京に運ぶ結節点としての近世の繁栄を今に伝える木ノ本（木ノ本町）・塩津浜（西浅井町）の町並みを散策。さらにその後、菅浦（西浅井町）へ。外部との境界となった四足門など、琵琶湖岸に今なお残る中世の風情を楽しみました。最後の訪問地、在原（高島市）に着く頃には降り続いた雨も止み、鮮やかな虹が30棟余り残る茅葺民家を彩ってくれました。（山元 建）



木ノ本見学風景

博物館秋季特別展

大阪府立近つ飛鳥博物館

平成 18 年度秋季特別展「修羅」重要文化財指定記念

『応神大王の時代—河内政権の幕開け—』

9月30日（土）から開催しております秋の特別展では、古市古墳群と応神陵古墳にスポットを当てました。4世紀の終わりから5世紀にかけて、応神陵古墳に代表されるたくさんの巨大な前方後円墳が築かれ、倭国の政権を河内の勢力が担う時代がやってきます。

河内に政権が誕生する前夜の動き、応神大王が活躍した時代、各地域の動向という観点から展示をしています。展示の目玉は、応神陵古墳の周濠から出土したとされるたくさんの水鳥形埴輪です。一度にこれだけまとまってご覧頂く機会はあまりありません。ぜひ一度ご覧下さい。

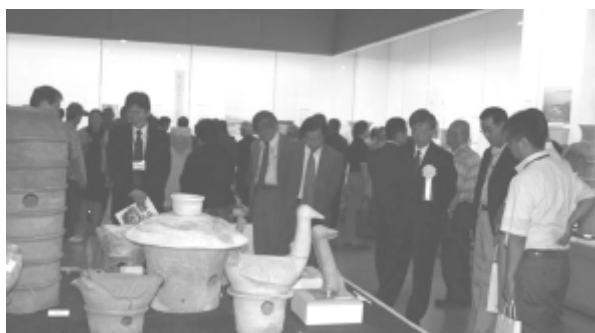
大阪府立弥生文化博物館

平成 18 年度秋季特別展 池上曾根遺跡史跡指定 30 周年記念

「弥生人 躍動す—池上曾根と吉野ヶ里—」

10月7日（土）から始まった秋の特別展示。今年は大阪府池上曾根遺跡が国の史跡指定を受けてから 30 周年を迎えることから、日本を代表する巨大環濠集落である池上曾根遺跡と同じく国の特別史跡指定 15 周年を迎える佐賀県吉野ヶ里遺跡の出土遺物を通して、弥生人の暮らしを探ろうとする展示会となっています。

開催前日には内覧会が開かれ、地元の方々ならびに関係者にご覧いただき、貴重なご意見・ご感想をいただきました。会期中には水野正好当センター理事長と金関 恕弥生文化博物館館長の対談をはじめ、考古学セミナーや池上曾根遺跡調査成果報告会、ワークショップなどの関連行事が実施されます。



内覧会の風景（撮影：近つ飛鳥博物館）



内覧会展示解説（撮影：弥生文化博物館）

開館 50 周年記念式典

日本民家集落博物館は、昭和 31 年（1956 年）に、豊中市立民俗館として設立されて以来、この 10 月 6 日に創立 50 周年を迎えました。我が国初の野外博物館として、飛騨白川の合掌造り民家（国指定重要有形民俗文化財）を移築復元して以来、各地の特徴的な民家建築を現在までに 12 件、移築公開して参りました。この 10 月初旬以降から創立を記念し、現在までの半世紀に渡る活動を総括する一連の 50 周年記念事業を開催いたしました。10 月 6 日（金）には、50 周年記念式典を、飛騨白川の民家前で開催し、当館設立に貢献された鳥越憲三郎氏（大阪教育大学名誉教授）、林野全孝氏（京都府立大学名誉教授）、白川の民家移築時旧所有者のご子息である、大井さんご兄弟をお招きし、移築当時の話を御披露いただきました。また、合わせて、桑の木の植樹を行いました。

10 月 7 日（土）には、大阪音楽大学の学生による木管楽器と金管楽器の四重奏コンサートを小豆島の農村歌舞伎舞台で開催し、10 月 8 日（日）には、同じく小豆島の農村歌舞伎舞台で、講演と座談会「野外博物館の今と未来—地域との連携をめざして—」を開催しました。基調講演では、杉本尚次氏（大阪人間科学大学教授）による「世界と日本の野外博物館における地域活動の事例」が披露され、第二部では、当館ボランティア代表の久保田栄氏、松田久仁子氏、松田聖子氏、岡村矩己子氏、谷口豊基氏と、助言者に瀧端真理子氏（追手門学院大学助教授）と杉本尚次氏を迎え、座談会「学ぶ・楽しむ、地域に根ざした野外博物館をめざして」を開催しました。参加者からの質疑応答も活発に行われ、熱気のうちに閉会しました。

10 月 14 日（土）～15 日（日）には、「椎葉神楽公演—山人の祈りの舞い—」を日向椎葉の民家にて開催しました。当館に移築されている日向椎葉の民家（国指定重要文化財）の地元、宮崎県椎葉村では、毎年 11 月～12 月にかけて、27 の集落で夜神楽が舞われ、平成 3 年には、国の重要無形民俗文化財に指定されています。今年度中に行われる日向椎葉の民家解体修理と、創立 50 周年を記念して、椎葉村から大河内神楽保存会をお招きし、2 日間で一挙 6 時間の公演を開催しました。大河内集落に伝わる 33 演目の中から椎葉神楽の特徴をよく伝える演目を選択し、椎葉民俗芸能博物館学芸員黒木光太郎氏により、椎葉神楽の概要と、各演目の解説を行っていただきながら開催し、好評を博しました。



大阪音楽大学コンサート

スポット展示

発掘調成果などをいちはお伝えするスポット展示。2006年8月12日におこなわれた部屋北遺跡（大阪府教育委員会が調査）の現地説明会をうけて、8月15日～20日の間、近つ飛鳥博物館にて同遺跡から出土した土器や写真パネルを展示しました。

また、弥生文化博物館では9月10日～10月5日の間、「瓜生堂遺跡でみつかったおもしろいもの―土佐（高知県）の土器と円頭形木製品―」と題し、展示をおこないました。

「河内の馬飼」と深く関わる人々がのこしたものの、遠く離れた地より運び込まれた土器や用途不明の木製品、どちらの展示においても見学者の興味はつきないようでした。



展示風景

企画展示「日本の暮らし―秋の歳時記―」

日本民家集落博物館では、9月3日～9月24日まで、秋の企画展示を行いました。春の企画展示との連続展示で、日本の農作業―とりわけ米づくりについて、大阪府文化財センター保管の遺物と当館所蔵の民具を展示しました。カルチュアはっとりでは収穫から精米について、農作業の流れと道具の違いや歴史に焦点をあてて紹介しました。また、夏の農作業についての展示を越前敦賀の民家にて行いました。観覧者の中には昔の苦労を思い出し今のありがたさを感じたとの感想がありました。

また、展示に合わせて米づくりを行い、子どもたちが石包丁と鎌を使って稲の刈り取りをしました。



展示風景（撮影：日本民家集落博物館）

椎葉古民家 解体修理決定

昭和34年（1959年）、関西財界の寄付により、日本民家集落博物館に宮崎県椎葉村から移築された「日向椎葉の民家（旧椎葉家住宅）」（国指定重要文化財）は、九州山地の只中に位置する山村の建築の特徴をよく伝える民家です。山の斜面を削り、石垣を築いた上に民家が建てられており、等高線に沿って横一列に部屋が並んでいます。背後は崖に面しているので開口部が全く無く、部屋の前面に二重に縁側が付けられています。毎年、椎葉村では11月～12月にかけて神楽が舞われますが、昭和30年代までは、どの集落でも民家が神楽宿となり、夜神楽の舞台として民家が利用されていました。

平成7年（1995年）の阪神淡路大震災以降、地盤の液状化により、柱や礎石が大幅にずれ、家屋の歪みがひどくなりました。全面解体修理の必要がある中、茅屋根の葺き替えもままなりませんでした。

このたび、文化庁・関西財界や市民の皆様のご理解・ご協力により、今年度中に解体着工することとなりました。



椎葉神楽公演



屋根の傷みが目立つ日向椎葉の民家

職員の異動

今年度は、年度途中に次のような異動がありました。
退職者（7月31日付）

井上宗嗣（専門調査員）

新規採用（10月1日付）

小林恒孝（専門調査員）南部調査事務所調査第2係

第2回 歴史体験隊

■第1回 縄文ポシェットをつくろう

2006年11月19日(日) 午前10時30分～午後3時
十津川の民家にて 講師 村上年生・山口誠治

■第2回 はにわをつくろう

2006年12月24日(日) 午前10時30分～午後3時
カルチュアはっとりにて 講師 三好孝一

■第3回 はにわを焼こう

2007年1月27日(土) 午前10時30分～午後3時
南部の曲家・ユースホステル前広場にて
講師 三好孝一

■第4回 ペーパークラフトをしよう

2007年2月25日(日) 午前10時30分～午後3時
十津川の民家にて 講師 本間元樹

日本民家集落博物館 むかしの道具2 漁具

■展示期間 2006年12月14日(木)～12月23日(土)
昨年の「むかしの道具1 農具」に引き続き、今回は漁具について大阪府文化財センター保管の遺物と当館所蔵の民具をカルチュアはっとりにて展示します。

かつて河内平野は湖でした。湖や海の周辺遺跡では、浮子やヤス、釜などの漁に関わる遺物やアカカキや櫂など舟に付随するものや準構造船が出土しています。今回の展示では東大阪市教育委員会のご協力で、宮ノ下遺跡の調査で貝塚から出土した縄文時代晩期～弥生時代中期の貝殻(セタシジミ)を希望者にプレゼントいたします(先着100名)。

重要調査に関する シンポジウム

2006年12月2日(土) 大阪歴史博物館においてシンポジウム「古墳時代に生きた渡来人の軌跡―長原遺跡・葦屋北遺跡・上私部遺跡を中心に―」を開催いたします。ぜひご参加ください。

記念講演

「朝鮮半島から河内へ―渡来の契機と定着―」
田中俊明(滋賀県立大学 教授)

研究成果報告

- ◆「長原遺跡における古墳時代中期の集落と渡来人」
田中清美(財団法人大阪市文化財協会)
- ◆「土器から探る長原遺跡渡来人の故郷」
寺井 誠(財団法人大阪市文化財協会)
- ◆「葦屋北遺跡の渡来人と河内の牧」
岩瀬 透(大阪府教育委員会)
- ◆「北河内の初期須恵器と渡来人」
南 孝雄(財団法人大阪府文化財センター)
- ◆「上私部遺跡と渡来人の動向」
網 伸也(財団法人大阪府文化財センター)

討 論 司会 後藤信義(財団法人大阪府文化財センター)

なお、同博物館8階にて開催中の特集展示「新発見! なにわの考古学2006」【2007年1月15日(月)まで】の一面にて出土遺物等の展示をおこなっております。
(展示を観覧される際には常設展示入場料が必要です。)

日本民家集落博物館 「秋山郷の暮らし―北越雪譜の世界―」展を見学して

日本民家集落博物館が開館50周年を記念して、10月1日から秋の企画展として開催中の標題の展示会を見学した。多くの解説パネルや写真とともに木櫓(きざり)をはじめとする秋山郷の民具も展示され、豪雪地帯の暮らしぶりが詳しく紹介されていて、大変興味深いものであった。民家集落博物館が所蔵する秋山郷の木櫓は、現在では両方のそりを結合する部分が欠けているが、本来の姿に復原して展示されている。

秋山郷付近の木櫓や雪具については、江戸時代の天保8(1837)年に初編3巻が、同12(1841)年に2編4巻が上梓された鈴木牧之の『北越雪譜』の2編巻之1「輻(そり)にも挿絵つきで紹介されている。そこでは、そりのことを修羅とも呼ばれている、と記述している。

ところで『北越雪譜』が出版された年よりも10年以上も早く、江戸の好事家達の会で、曲亭(滝沢)馬琴が木櫓をはじめ、雪国のさまざまな雪具を紹介している。文政7(1824)年5月から翌年の11月にかけて20回

開かれた「耽奇会」がそれで、馬琴が前記の紹介を行ったのは、文政8年2月1日に開かれた第11回目の会で、6人が出席している。毎回の記録を冊子にした『耽奇漫録』には詳細な図が掲載されている。

さて、1982年に第1刷が刊行された、岩波クラシックス版『北越雪譜』の解説(益田勝実氏)によれば、『北越雪譜』の出版を鈴木牧之が思ったってから、実際に刊行にこぎつけるまで何十年かの時間を要した。この大難産の課程で、牧之は馬琴に相談し稿本や挿絵の一部を文政3(1820)年に送っている。結局この計画はうまくいかなかったが、馬琴から牧之へ原稿の返却はなかった。

しかし、文政8年2月の「耽奇会」での馬琴による雪国の雪具の紹介は、文政3年に牧之から送られた稿本と挿絵が大きな契機となっていることは、まず間違いあるまい。江戸の有名作家、曲亭馬琴の一面を垣間見る思いがする。
(福岡澄男)

《 ふたつの高麗青磁 》

写真にかかげたのは、二種の高麗青磁である。ひとつは箕面市所在の粟生間谷（あおまだに）遺跡、もうひとつは茨木市所在の玉櫛（たまくし）遺跡から出土した。いずれも摂津国嶋下郡（しましもぐん）内の遺跡である。

粟生間谷遺跡は、1994～99年度にかけて調査が行われた、中世前期を中心とする集落遺跡である。高麗青磁皿は、土壌墓から副葬品として出土した。上に刀子、さらにその上に砥石とやや長めの刀子が載せられていた。二ヶ所の欠けは、埋葬に際して意図的に打ち欠かれたとも考えられる。

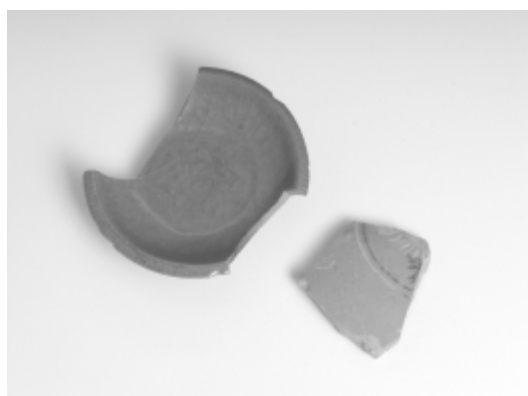
玉櫛遺跡は、1990年度以降数次にわたって調査が行われてきた中世の集落跡である。高麗青磁片は、今年度の調査において中世末の耕作土層から出土した。

ひとことで高麗青磁というが、ふたつの遺跡から出土した青磁は、製作された年代や用いられた技法の違いにより、与える印象を全く異にしている。

粟生間谷遺跡出土の皿は、印花（型押しして紋様をつける）で花紋を施した、良質な「初期高麗」。

輪花の小皿で、11～12世紀のものと思われる。

玉櫛遺跡出土の破片は、象嵌（彫った紋様に白や黒に発色する土を埋め込む）により紋様を表した「象嵌青磁」。二重の円におさめた花紋のまわりに雲紋等を散らし、梅瓶または壺を飾っていたのであろう。13～14世紀のものである。（信田真美世）



左：粟生間谷遺跡出土 右：玉櫛遺跡出土

訃報 堅田 直 理事

当センター理事の堅田 直氏が8月15日、心不全のため逝去された。享年79歳。堅田理事は当センターが設立された1972年11月以来、一貫して理事に選任され、当センターの運営について常に指導的役割を果たされた。

大阪信愛女学院短期大学講師、同助教授、帝塚山大学助教授、同教授、帝塚山考古学研究所所長、同大学院人文科学研究科教授を歴任され、同大学名誉



瑞宝小授章受章の祝賀会にて

教授となられた。定年退職後も、文部省統計数理研究所客員教授、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科非常勤講師を務められた。

大阪府春木八幡山遺跡、池田茶臼山古墳、日下遺跡、玉手山遺跡、弁天山古墳群をはじめ、多くの遺跡発掘を手がけられるなか、前方後円墳の築造企画に深い関心をよせられ、晩年にいたるまで研究を続けられた。一方、考古学のコンピューター利用にも早くから取り組まれ、1995年には日本情報考古学会の初代会長に就任された。また、帝塚山考古学研究所に縄文文化研究部会、弥生文化研究部会、古墳文化研究部会、歴史考古学研究部会、東アジア考古学研究部会を設けるなど、組織者としての手腕を発揮されるとともに、また、一般市民を対象とした帝塚山考古学談話会を1966年以来、555回にわたって開催され、考古学の普及にも多大な足跡を残された。このような業績に対し、2005年秋の叙勲で瑞宝小授章を受章された。『古墳』、『情報考古学』他、著書・論文多数。

弥生文化博物館

冬の展示ご案内

平成 18 年冬季特別展

「発掘された日本列島 2006 (新発見考古速報展)」

テーマ展示「遺跡でたどる国際交流」

会期 平成 18 年 12 月 23 日 (土) ～平成 19 年 1 月 21 日 (日)

平成 19 年 1 月 1 日より開館します

〈会期中の休館日〉12 月 25 日 (月)、28 日 (木) ～31 日 (日)
1 月 9 日 (火)、15 日 (月)

講演会【場所：本館 1 階ホール】

- ・平成 18 年 12 月 23 日 (土) 午後 2 時～午後 3 時 30 分
工楽善通氏 (大阪府立狭山池博物館館長)
「荒谷遺跡と東北の弥生文化」
- ・平成 19 年 1 月 7 日 (日) 午後 2 時～午後 3 時 30 分
西谷 正氏 (九州大学名誉教授・伊都国歴史博物館館長)
「雑餉隈遺跡・八ノ坪遺跡・白藤遺跡と九州の弥生文化」

ワークショップ【場所：セミナー室】

・平成 18 年 12 月 24 日 (日)・平成 19 年 1 月 6 日 (土)・平成 19 年 1 月 13 日 (土)
いずれも午後 2 時～午後 3 時

展示解説【場所：特別展示室】

会期中の毎週日曜日と祝休日 午前 11 時から

* (財) 大阪府文化財センターとの共同研究発表会

『南九州弥生文化の総合的研究』

日時：平成 19 年 2 月 4 日 (日) 午後 1 時～午後 4 時

*小テーマ展示 シリーズ ここまでわかった考古学

『現代によみがえる農耕集落 池島・福万寺遺跡

－ 水田稲作開始期を中心に－ (仮)』

会 期 平成 19 年 2 月 10 日 (土) ～平成 19 年 3 月 25 日 (日)

調査成果報告会 平成 19 年 2 月 24 日 (土)・平成 19 年 3 月 11 日 (日)
いずれも午後 2 時～午後 4 時

近つ飛鳥博物館

冬の展示ご案内

発掘された日本列島 2006 地域展

『河内湖周辺に定着した渡来人

－ 5 世紀の渡来人の足跡－』

畿内には朝鮮半島南部の百済、伽耶地域からきた多くの渡来人の足跡が残されています。彼らは畿内の王権中枢と深く関わるとともに、須恵器の製作や竈の使用など彼らによってもちこまれた新しい技術や文物は、古墳時代の人々の生活にも大きな影響を与えました。

近年明らかになってきた 5 ～ 6 世紀の渡来人に関わる遺跡を中心に畿内の古墳時代の調査成果を紹介します。

■会期：平成 18 年 12 月 23 日 (土) ～

平成 19 年 2 月 12 日 (月・祝)

会期中には、各種催しものを予定しています

* (財) 大阪府文化財センターとの共同研究発表会

『摂河泉古代寺院の総合的研究』

日時：平成 19 年 2 月 10 日 (土) 午後 1 時～午後 4 時

*小テーマ展示 シリーズ ここまでわかった考古学

『弥生時代・古墳時代の木製品

－ 出土木器が語る考古学－』

■会 期 平成 19 年 3 月 3 日 (土) ～4 月 8 日 (日)

■会期行事 シンポジウム 3 月 4 日 (日)

「出土木製品からさぐる社会の変容」

展示説明会 3/25 (日)・4/ 1 (日)・4/ 8 (日)

※詳しくは博物館までお問い合わせください

開館時間：午前 10 時～午後 5 時

日本民家集落博物館 催しご案内(12月～3月)

◆菊炭復活「池田炭展示と大茶会」正月飾り炭製作

平成 18 年 12 月 9 日 (土) ～10 日 (日)

北河内の茶室で裏千家大茶会を行い、小豆島の農村歌舞伎舞台で池田炭の展示と販売、正月用飾り炭の製作体験を行います。お茶券 300 円。材料費 100 円。

◆ふるさとのお雑煮会

平成 19 年 1 月 7 日 (日) ～8 日 (月・祝)

飛騨白川の合掌造り民家大井家のお雑煮と、信濃秋山郷のお雑煮を再現し、囲炉裏端で試食。各 300 円。

◆小学生向け特別展示「昔の暮らし」

平成 19 年 1 月 16 日 (火) ～2 月 28 日 (水)

展示室カルチュアはっとりにて、当館所蔵の民具を展示し、期間中、小学校を対象に、「昔の暮らしについて、おじいちゃん、おばあちゃんの話聞こう」を開催します。

◆第 6 回民家集落作品展

平成 19 年 3 月 4 日 (日) ～21 日 (水・祝)

民家全般や当館に関する作品を公募し、曲展示します。

* (財) 大阪府文化財センターとの共同研究発表会

『住居に関する総合的研究 (5)』

日 時：平成 19 年 3 月 17 日 (土)

午後 1 時 30 分～午後 4 時

*小テーマ展示 シリーズ ここまでわかった考古学

『禁野火薬庫の調査』

期 間：平成 19 年 3 月 8 日 (木) ～21 日 (水)

講演会：3 月 10 日 (土)

午後 2 時～午後 4 時